

## 生徒が決めたディベートのテーマ

### 話し合ってみたいテーマ

生徒から出されたテーマを見ると、中学生らしいものが並んでいることに気づきます。学校生活への不満が反映されたもの、世の中や社会への疑問、教育体制や教育内容への疑問などが多くを占めています。その裏には、中学生ならではの考えや意見があることがうかがえます。

その中で、「治らない病気を知らせるべきか」と「消費税は必要か」は、少数派でした。にもかかわらず、この2つが選ばれました。それは、「話し合ってみたいテーマはどれか」という点から考えたためではないでしょうか。

生徒にとって、身近で興味があることと、話し合ってみたいこととは、必ずしも一致しないということですが。話し合ってみたい、すなわち、もっと知りたい、調べたい、考えたい、自分以外の人意見も聞きたいという知的好奇心や知的欲求に基づいた選択だったのではないのでしょうか。

中学生は、子どもらしさを残しながらも、もう立派に大人としての考え方ができるのです。ディベートは、そんな中学生のパワーを引き出すことができる手法の一つと言えます。

### チーム編成をどうするか

ディベートのテーマ（論題）が決まったあとは、肯定側、否定側のチーム編成となります。ディベートでは、本来、機械的にどちらの側になるかを決めてもいいのですが、生徒はまだ初心者です。自分の考えに沿った側のチームでなければ、意欲の低下が考えられます。自分の意に反した側のチームでは、勝利に向かって努力するという姿勢が失われるかもしれません。

そこで、生徒の希望によりチーム編成を行うことにしました。希望通りのチームであれば、互いに協力して最後までがんばることが期待できます。

ディベートに慣れてくれば、機械的なチーム編成にしても討論が成り立つと考えます。自分の考えとは違った側に立ったとしても、自分の考えの弱点などを考えればよいということに気づくことでしょう。

### ディベートの導入にふさわしいテーマ

中学3年生だと、生徒から上述のようなテーマが出ますが、中学1年生だと、また違った傾向が見られます。「給食と弁当はどちらがよいか」「海と山はどちらがよいか」「住むなら都会と田舎のどちらがよいか」などです。

これらのテーマ（論題）は、病気の告知や消費税の問題に比べると、調べる要素が少なく済みます。準備にそれほど時間がかからないということです。そのため、気軽に短時間で、まずはディベートをやってみるという目的には、もってこいのテーマ（論題）だと言えます。